



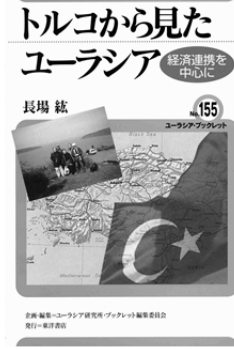
注目の新刊を
チェック!

長場 紘著

トルコから見たユーラシア —経済連携を中心に

(東洋書店、ユーラシアブックレットNo.155、2010年)

ISBN978-4-88595-928-8 A5判・64頁 定価:本体600円+税



先日、トルコのイスタンブールに調査出張に出かける機会があった。調査テーマは黒海周辺諸国間の経済関係だったのだが、個人的にトルコを訪問するのは初めてである。考えてみれば、トルコという国そのものについては、たとえば今日の政治体制がどうなっているのかということすら、私にはよく分からない。時あたかも、エジプト革命が周辺国に波及しつつあった頃で、ひょっとしたらイスラム国で地理的にも近いトルコにも何らかの影響が及ぶのでは、という不安が頭をよぎった。というわけで、トルコ出張を前に、できる限り予備知識をインプットしておこうと思い立ち、手に取ったのがこのブックレット『トルコから見たユーラシア』だった。トルコの国情を解説しつつ、その延長上で同国とロシア・中央アジア・コーカサス諸国の経済関係について語るというその内容は、まさに私のトルコ出張の予習に打って付けだった。

ちなみに、若干気になったエジプト革命のトルコへの影響だが、結論から言えば現状ではほぼ皆無のようである。本ブックレットによれば、トルコでは2002年の選挙で親イスラムの公正発展党が圧倒的な支持を受け単独で政権を樹立、2007年の選挙でも圧勝して現在に至るといふ。しかし、国是である世俗主義の擁護者を辞任する軍部と対立し、2010年には公正発展党の打倒を目論むクーデター計画も発覚したとのことだ(11頁)。だとすれば、

基本的な政治の構図は、エジプトやアラブ諸国とだいぶ異なり、革命の波が直接的に及ぶようなことは考えにくいだろう。

さて、本ブックレットのなかで、個人的にとりわけ興味深く読んだのは、第3章と第4章である。第3章では、トルコとロシア・中央アジア・コーカサス諸国との国際経済協力の枠組み、すなわち経済協力機構(ECO)、黒海経済協力機構(OBSEC)、チュルク系諸国首脳会議、トルコ国際協力庁(TICA)による試みが整理されている。この地域におけるトルコとイランの主導権争い、その背景にある経済協力とイスラムという2つの要因の摩擦が指摘されている。さらに、第4章では、トルコを軸にした貿易関係、そしてトルコ企業によるロシア・中央アジア・コーカサス諸国への進出動向がまとめられている。

第5章、第6章では、カスピ海および中央アジア諸国における石油・ガスの開発と、その輸送問題が論じられている。このテーマは確かに重要ではあるが、それだけに文献も多いので、むしろ第3章、第4章により多くの紙幅を割いてくれた方が、個人的には有難かった。また、黒海地域の重要国ウクライナがテーマに含まれていないのは、やはり不自然ではないか。というバランス上の注文は付けなくなったものの、手堅くまとめられた有益な入門書であることに変わりはない。

(服部 倫卓)